

西岡市長の公約「6施設複合化」により、市政は先行き不透明に

6施設とは一

1 本庁舎 約3000㎡

2 第二庁舎 約6000㎡ (賃借料年間約2億3千万円)

3 本町暫定庁舎 第二庁舎北駐車場に隣接。稲葉前市長は、隣接する第二庁舎北駐車場も活用し、福社会館の建て替えを提案、公民館は除きシルバー人材センターの事務所を入れるなど福祉に特化し、平成31年度完成予定だった。

4 福社会館 平成28年3月で一般使用終了。

5月の臨時議会で西岡市長は、以上の4施設を先行整備すると明言

5 前原暫定集会施設 旧小金井公会堂の建て替えの際に代替施設として設置。

6 図書館 耐震性は確保しているが、手狭なことが長い間の課題。

しかし、3を活用しての市民検討委員会がスタートしたところで、西岡市長が誕生。そのため市民検討委員会は1回しか開催していない。その後3月議会で自民・公明・共産で提案された市民検討委員会は議会で可決されたものの、西岡市長は再議に付して否決。しかし、6月議会ではあらためて設置を提案するという。迷走する西岡市長の対応。

4施設の先行整備というが、蛇の目跡地の活用にはリサイクル関連施設の再整備や財政上の理由も含め3～4年での完成は困難、10年近くかかるとの予想も。新福社会館の稼働には明らかに稲葉前市長案より長時間かかり、市民の不便が続くことになる。

さらに、2の第二庁舎について稲葉前市長は平成26年9月に約18億円(土地12億円、建物6億円)で買い取りを提案したが、議会からの指摘で一旦撤回した経過がある。西岡市長は買い取らないことを施政方針で明言しており、総合庁舎完成までの期間次第では本当に無駄遣いになりかねない。市民の為に「最小の費用で最大の効果を」という地方自治法の精神にも反することを明言したことになる。

詳細は何も決まらないまま、4施設の先行整備を言い出したということは、6施設複合化が難しいことを認めたとも言えるであろう。はたして4施設先行整備は実現できるのか、まだ先行きは不透明である。